

# 「水俣病市民会議 日吉フミコは動いた」 企画展

## 趣旨

教師だった日吉フミコは、昭和三十八年三月二十二日、水俣病患者と胎児性の子どもたちに出会い、衝撃を受ける。「それから昼も夜も胎児性の子供たちのことが気になり、私があの子供たちの母親だったらいったいどうすればいいのだろうか。床につくと、あの子たちの姿が天井にちらつき、うなされる夜が続きました。私は救いを求めて熊本から母を呼びました。四八歳の私は母にしがみついて寝ました。」

当時の水俣にあって、水俣病のことはほとんど語られない状況の中で、被害者の苦しみをわが苦しみとして訴え、水俣病を大きく世に知らしめていく起爆剤となっていく。

水俣病市民会議の会長日吉フミコたちは水俣病の被害者への支援の組織を水俣で最初に立ち上げ、最初に手を差し伸べた。

水俣病が一九五六年(昭和三十一年)に公式確認され、原因究明が行われたが、チツソの工場排水に含まれる有機水銀が原因であると政府が公害病認定したのは、一九六八年(昭和四三年)のことであった。すでに十二年経過していた。被害者は生活することに困り果て、昭和三四年、患者たちはチツソと見舞金契約を結んだ。のちの裁判で公序良俗に反すると断罪されたあまりにも安い見舞金であった。当時、水俣で大きな経済的影響力を持っていたチツソに比べ、被害者はあまりにも弱い立場に置かれていた。

新潟においては、一九六五年(昭和四〇年)八月に被害者支援組織として「新潟県民主団体水俣病対策会議」(議長斎藤恒)を、同年一〇月には被害者団体として阿賀野川有機水銀被災者の会(会長近喜代一、のち新潟水俣病被災者の会)を結成していた。一九六八年(昭和四三年)一月新潟から水俣病患者、弁護士、支援者らの水俣来訪を前に、支援組織を結成しようと水俣でも水俣地区労働組合協議会を中心に「水俣病対策市民会議」(のち「水俣病市民会議」に改称)を発足させ、被害者救済運動の大きな出発点となった。

会長に昭和三八年に水俣市議会議員に当選した日吉フミコ、事務局長に市職労組の松本勉が就き、立ち遅れていた被害者支援の動きが一気に活発になり、被害者の支援にまい進していく。

日吉フミコは水俣市議会でも自らの信念に基づいて正しいと思うことを議会において発言し、二度も懲罰を受けている。湯の児病院の建設や胎児性患者のための病院内の分校設置に尽力した。

水俣において水俣病という困難な課題に立ち向かい、水俣病市民会議の会長として動いた日吉フミコという一人の人間の歩いた軌跡を明らかにする。

水俣病資料館

# 患者団体と市民会議の主な動き

年号	主な水俣病の歴史	熊本・鹿児島での主な患者・被害者団体	水俣病市民会議の動きと日吉フミコ
S21 1946			4月 日吉、熊本県菊池郡池田町へ引越す。
S26 1951			4月 日吉、水俣市立第一小学校教諭として赴任。
S29 1954	6月14日、新日室村風病院に一人の患者(49歳)		
S30 1955	8月、付風病院にまた一人の患者。		
S31 1956	4月下旬、付風病院に子供が二人入院。 5月1日、水俣病公認確定。		
S32 1957	4月4日、伊藤水俣保健所長、水俣漁業介類でネコ発症実験に成功。	水俣奇病罹災者互助会 57年8月1日	4月 日吉、水俣市立水俣小学校教諭に赴任。
S33 1958		水俣病患者家庭互助会 58年8月1日	
S34 1959	12月30日、見舞金契約		
S35 1960			
S36 1961			
S37 1962			
S38 1963			3月22日 市立病院に見舞いにきていた北重学園女子高校(北海道)の後ろをついて回り、水俣病患者をはじめ見て病態を受ける。
S39 1964			4月 日吉フミコ、水俣市議会議員に初当選。
S40 1965			6月 一回目の懲罰
S41 1966			4月 干潮のときにしか見えない排水パイプを調べ、後日撮影。後に、公害認定の大きな力になった。
S42 1967	6月12日、新潟一訴訟提訴		11月 富士山イタイイタイ病、新潟水俣病、四日市ぜんそく訴訟のこを知る。 12月 熊本県水俣病対策市民会議発足のため水俣病被害者家族を訪ねる(日吉、赤松、松崎、山田)
S43 1968	1月18日、水俣病公認確定 5月18日、テツコ水俣工場のアセチレン法アセチレン製造設備稼働停止。 9月29日、「水俣市発展市民協議会」発会(患者は不参加)。 10月11日、テツコ、水俣母液の処理急ぐと判明し、熊本地裁が証拠保全。 10月15日、熊本地裁第1回口頭弁論。原告撮影を拒否して入証(上村智子と智子の撮影は違法命令)。	1969年4月日	1月12日 水俣病対策市民会議発足(のちに「対策」を削除) 1月18日 園田厚生大臣へ陳情。水俣病の公害認定、患者の救済など(松崎徹朗議員) 3月 福岡県田川一社会党委員長と各県議連長と交渉。「国はどうしても見えない訴訟をださうぞ。裁判員に真犯人は出せない」と委員長、日吉に直接交渉。 4月10日 通産省化学工業局化学第一課小林勝利へ八幡浦プール排水口の写真送付。 4月27日 互助会・市民会議合同集会。約40名。日吉「裁判員以外に真犯人は出せない」。 5月16日 富士山イタイイタイ病現地視察。 7月28日 母親大会。水俣病問題で特別訴え。 8月27日 自治労水俣支部を決議。 9月5日 水俣病被害者支援決定。 9月12日 熊本県総評。一〇〇円カンパ決定。 9月15日 互助会総会。 9月18日 互助会熊本、副会長中津、市民会議退席届け。 9月22日 午後二時、園田厚生大臣、市役所着、日吉迎え、患者と面会申し入れ大臣「家、大臣」公害認定は近いよ。 10月2日 互助会幹部上京し公害認定で園田厚生大臣へ陳情。 10月14日 熊本地裁で新潟裁判出張尋問を傍聴。 10月24日 互助会第二次交渉。
S44 1969	6月18日、熊本水俣病訴訟弁護団結成(園長山本茂雄、全国222人参加)。 6月14日、第1次訴訟提訴 6月30日、互助会見舞金受け取り。 9月1日、患者家族30名。水俣病研究会発足。 10月11日、テツコ、水俣母液の処理急ぐと判明し、熊本地裁が証拠保全。 10月15日、熊本地裁第1回口頭弁論。原告撮影を拒否して入証(上村智子と智子の撮影は違法命令)。	一任派 (61世帯) 訴訟派 (29世帯)	2月16日 テツコに市民会議決定の抗議文を出す。 2月21日 県上承認協議より日吉議員は公害対策委員だから(市民会議のテツコへの抗議について話し合いたい)。 2月28日 患者牛嶋直より電話「印鑑持って集まれ」と市から電話。日吉、元山市議、第三者機関設置の問題と直感。動けはらぬと云う。 3月1日 互助会総会。厚生省の「確約書」をめぐる激論。あっせん依頼すること決定。 3月15日 互助会総会。厚生省の「確約書」をめぐる激論。あっせん依頼すること決定。 4月5日 自主交渉派総会。 4月11日 12日、10時にテツコと交渉申し入れ。全員をテツコ社内に入れる(26名)。日吉、長野、田上が協力。 4月20日 水俣病を告発する会「発足(熊本、代表本田啓吉)。 5月8日 訴訟派総会。代表に渡辺栄蔵選出。補佐一田中義光、坂本フジエ。会計一田上義孝、監査一上村好男、浜田義行、ほか申し合わせ事項決定。出席二百四世帯、次男五世帯。 5月27日 一任派、あっせん委託預印。市民会議、水俣工場前で抗議の野営集会。テツコ第一組合抗議の3時間スト(初の公害スト)。
S45 1970	7月4日、水俣病裁判出張尋問。細川一が東京の徳研究会付風病院にて証言。ネコ400号実験を中心に、テツコ社内研究について当時のメモ提出。 8月18日、川本行政不服審査請求		6月17日 日吉が市議会で情報公開につき浮田正基市長を追及。 7月18日 日吉、新会へ懲罰処分。 7月18日 患者総会。判決後東京直接交渉は患者家族と市民会議が中心と決まる。 7月28日 訴訟派患者、市民会議、告発する会が巡礼乗でテツコ株主総会に乗り込む。 1月8日 告発する会、水俣市民「ピラ」万枚配布。 1月28日 市民会議、患者家族の調査録作成開始。
S46 1971	1月8日、熊本地裁、テツコ水俣工場など現地検証。 3月5日、第12回口頭弁論。西田証人ら退庭。「ウソつき」「人殺し」などの激しいヤジに証言拒否。 5月26日、テツコ株主総会、ガードマンを雇い議案採決進行。 6月30日、富士山イタイイタイ病裁判判決。患者側勝訴。 9月29日、新潟水俣病判決。患者側勝訴。 10月6日、熊本県、川本輝夫ら不服申立ての7名を含む16名を認定。 5月31日、赤元二徳、坂本しのぶ、フジエらストックホルム(国連人間環境会議)へ出席。 7月24日、四日市裁判判決。原告勝訴。 8月9日、富士山イタイイタイ病控訴審判決。原告勝訴。 12月27日、東京地裁、川本輝夫を起訴。	新認定患者 水明会 71年12月22日 (調停案) 71年11月 自主交渉派 71年10月11日 中間派 72年3月28日 水俣病被害者家族互助会 72年5月19日 水俣病被害者東京本社交渉部 73年3月23日	(名称変更)
S47 1972	1月20日、熊本第二次訴訟、熊本地裁へ提訴。原告141人。 2月8日、水俣病被害者医療施設、明水閣落成式。 2月14日、患者らテツコ熊本本社と異議に座り込み、警備隊に押される。 3月20日、熊本水俣病一次裁判判決。患者ほぼ全勝。	水俣病被害者平和会 73年5月	
S48 1973	7月9日 二次訴訟判決を控へ6票 補償協定へ印刷		3月8日 訴訟派、自主交渉派が判決後直接交渉について話し合い、弁償額と謝罪。 3月17日 患者総会。判決後東京直接交渉は患者家族と市民会議が中心と決まる。 3月18日 テツコが控訴せずと発表。 9月20日 熊本水俣病一次裁判判決。患者ほぼ全勝。テツコの企業責任に下がる。患者家族が判決後、地裁前で報告集会。 患者家族が判決後、自主交渉派と東京交渉派を組織(園長田上義孝)。原告患者と家族室時長しおし、坂本嘉吉・トキ子、坂本フジエのしのみ、荒木洋子、上村好男、赤元二徳、つた、浦口明男、田上義孝、坂本カエ、杉本トシ、江崎下マサ・英・美一、長島アキノ、辰枝、尾上光雄・ハルエ、尾上時善・ツイ、中村シメ、前島武蔵、山田ハ、諺山茂、浜田義行。市民会議からは日吉フミコ、松崎英次、吉岡二男、花田俊雄、坂本敬広、田上義孝、岡本達明、山下善寿、松崎英次、伊藤紀英代、熊本県代表の本田啓吉ほか。 11時30分、東京着。自治労会館に宿泊。 3月21日 テツコより次の誓約書を取る。 3月22日 テツコより次の誓約書を取る。
S49 1974	7月16日、不作違法確認訴訟提訴		
S50 1975			
S51 1976			
S52 1977			
S53 1978			
S54 1979	3月28日、第2次訴訟判決(勝訴)		
S55 1980	5月21日、第3次訴訟提訴		
S56 1981			
S57 1982	10月28日、関西訴訟提訴		
S58 1983			
S59 1984	5月2日、東京訴訟提訴		
S60 1985	11月28日、京都訴訟提訴		
S61 1986			
S62 1987	3月30日、第3次訴訟1審判決(一勝原告勝訴)		
S63 1988	2月19日、福岡訴訟提訴		
H元 1989			
H2 1990			
H3 1991			
H4 1992			
H5 1993	2月6日、「水俣病問題の早期全面解決と地域の再生」提議を推進する市民の会」の設立		
H6 1994	5月1日、慰霊式にて市井市長が式辞で反省の意を表明。		
H7 1995	12月、裁判解決案撤回		
H8 1996	4月、5つの裁判が和解・取下げ		
H9 1997			
H10 1998			
H11 1999			
H12 2000			
H13 2001			
H14 2002			
H15 2003			
H16 2004	10月15日、関西訴訟最高裁判決(患者勝訴)		
H17 2005	10月3日、不知火患者会国際関係訴訟(ノーマ・ミナマタ国賊審判決)提訴		
H18 2006	2月27日、ノーマ・ミナマタ近畿国賠訴訟提訴		
H19 2007	7月8日、水俣病特措法成立		
H20 2008	2月23日、ノーマ・ミナマタ東京国賠訴訟提訴		
H21 2009	5月1日、慰霊式に鳩山首相(当時)が出席。		
H22 2010	2月23日、ノーマ・ミナマタ東京国賠訴訟提訴		
H23 2011	3月、4つの訴訟(新潟含む)が和解		
H24 2012	11月、東京高等裁判所が3010人を認める。 2月3日、申請受付を7月31日に締め切る決定。		

水俣病対策市民会議 (68年1月12日)

水俣病市民会議 (70年8月4日)

水俣ぼたるの家 96年8月 市民会議事務局

水俣病協働センター (07年8月)

誓約書  
当テツコ株式会社は熊本地方裁判所に、昭和四八年(一九七三年)三月二〇日の判決に対して、上新権放棄を承諾しました。よって、この判決に基が全ての責任を認め、以後水俣病に関わる全ての債権を放棄して実行いたします。右誓約いたします。

昭和四八年三月二二日  
テツコ株式会社取締役社長 高田一 印  
テツコ本社交渉部長 田上義孝 殿

# 「水俣病市民会議 日吉フミコは動いた」水俣病資料館企画展

No.	タイトル
<b>A 趣旨</b>	
1	趣旨
2	水俣病対策市民会議の発足にあたって
<b>B そのとき日吉フミコはどう動いたのか</b>	
3	胎児性の子供らに衝撃を受け 私は市議の道を選んだ
4	園田直厚生大臣に直訴
5	八幡プール排水口のかくしパイプ
6	昭和42年12月 はじめて議会で水俣病について質問をした
7	水俣病対策市民会議の発足まで その1 原因物質が分からない… 長く続く奇病の時代
8	水俣病対策市民会議の発足まで その2 救われない患者 誰もいない支援者
9	水俣病対策市民会議の発足まで その3 昭和43年1月12日 患者の支援組織
10	水俣病対策市民会議、チツソに抗議文を出す その1
11	水俣病対策市民会議、チツソに抗議文を出す その2
12	水俣病対策市民会議、チツソに抗議文を出す その3
13	第三者機関に白紙委任
14	議会におしかけた男たち
15	「患者の立場に立ってあなたを呪う」と議会で市長を追及し 懲罰動議
<b>C 日吉フミコ 坂本フジエは語る 水俣病市民会議秘話</b>	
16	菊池に生まれて、師範学校から先生へ そして満州へ
17	市議会議員に…
18	もっとはやく水俣病のことを研究しとつたら
19	昭和43年の市民会議の発足
20	あわてて市民会議をつくって
21	裁判するならしてみろ 勝つち決まっとらん
<b>D 日吉フミコを語る</b>	
22	田尻賞
23	日吉先生こそ 水俣の田中正造
24	患者のために孤軍奮闘した「即興劇」 市議会での 日吉さんと 水俣市長ら市の幹部とのやりとり
25	日吉先生の議会内外での苦闘を知る
26	谷
27	伊藤
28	坂本フジエの語る日吉フミコ もう姉妹以上の付き合いじゃな
29	丸山定巳
<b>E 年表</b>	
30	患者団体と水俣病市民会議の主な動き
31	年表